

令和3年度 西東京市立芝久保小学校 学校自己評価表

＜学校教育目標＞		自他の人権を尊重し、よりよい国際社会を築くための資質や能力の伸長を図る。自ら学び、自ら考え、元気で心豊かな思いやりのある児童の育成を目指す。				学校関係者評価								
＜目指す学校像・児童像・教師像＞		学校教育の成果を継承しつつ、「不易」と「流行」を見極めて、改革・改善を図る。創造性と先進性のある学校経営を進め、保護者や地域の信頼に応える学校を目指す。				A・・・評価は適切である B・・・評価に一部改善が必要である C・・・全体的に改善が必要である								
領域	中期経路目標	番号	短期経路目標	具体的方策	努力目標	成果目標	分析	改善策	学校関係者評価					
					学生	児童	児童	児童	児童					
豊かな心の育成	生活指導・人権教育の充実	1 健	異学年交流を通して、心豊かな思いやりのある児童の育成を図る。	異学年交流などの異学年交流を充実させ、互いに認め合い協力できる指導を実践していく。	4	1 月1回以上実施	④	児童の取り組んでいるという評価80%以上	① 23 ② 25 ③ 20 ④ 30	児童	90	<ul style="list-style-type: none"> ・全校児童でのたわわり班活動から、2学年ごとの活動に変更したことで、計画や活動のしやすさが向上した。 ・少人数での活動により、児童同士の関わりが強く、達成感や満足感が向上した。 ・活動の準備段階が下学年に伝わりやすかったため、教員の実施回数認識にずれが生じている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・異学年交流については、今年度に変更した点も多く、初めて実施するものもあった。次年度に向けて今年度の反省を踏まえ、活動内容や児童の関わり方の素地をきちんと構築して次年度の活動につなげていく。 ・ペア学年の実施日とその回の大まかな内容を健やか支援部会で計画し、学年間のずれを満らしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍でもできる限りの交流を図っている。改善に向けて努力していることがわかった。 ・異学年との交流により、年上の人、年下の人に対する対応を学べるのはとても良いことだと思う。 ・教員同士の意識疎通ができていて関係が伝わっている。 ・交流イベントという形で異学年交流を実施してよかった。
					2	2 学期に1回実施	2	児童の取り組んでいるという評価70%以上	① 33 ② 35 ③ 30 ④ 35	児童				
	2	学期に1回未満実施	1	児童の取り組んでいるという評価60%未満	① 33 ② 27 ③ 30 ④ 35	保護者	95	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度からの新しい生活様式を継続的に、毎日の味塩や手洗いを習慣化することができた。 ・毎学期のいじめ防止と聞き取り対応、いじめ防止に関する授業、年3回以上の校内研修等の取組を継続的に続けてきたことによる成果と言える。 ・早期初めの全員面談を実施し、早期発見、早期対応に役立っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手洗いの重要性、健康・安全に対する理解を高める指導を改めて行う。 ・引き続き、感染症対策に努めることで、より一層、自己と他者の健康への意識と配慮を高めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で学校の感染対策は行事を含めてもできていて、安心している。 ・来賓士によるタブレットでの食育の取組は非常に興味があり良いと思う。 ・学校施設は冷たい水道水で手洗いを行っている環境がずっと続いている。建て替えなどの際には、お湯が出るようにしてほしい。 				
	2	学期に1回未満実施	1	児童の取り組んでいるという評価80%以上	① 33 ② 35 ③ 30 ④ 35	保護者					93	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員間や保護者との間で連携がしっかりとれていることが、評価につながった。 ・毎学期のいじめ防止と聞き取り対応、いじめ防止に関する授業、年3回以上の校内研修等の取組を継続的に続けてきたことによる成果と言える。 ・早期初めの全員面談を実施し、早期発見、早期対応に役立っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や関係機関と今後も情報の共有や細かな連絡を継続して行っていく。 ・年3回のいじめ調査、全員面談、いじめ防止授業、校内研修等を次年度も継続して実施する。 ・いじめ防止対策について基本方針や授業、研修等の様子保護者や地域に発信していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・芝久保小はとても落ち着いていると思う。 ・問題が発生したときに、悪友だけではなくすぐに学年全体の面談を実施したと聞き、迅速な対応に安心した。 ・保護者アンケートで、あまりそう思わない、そう思わないと回答した人がいることが気になる。
	2	学期に1回未満実施	1	児童の取り組んでいるという評価60%未満	① 33 ② 27 ③ 30 ④ 35	保護者	89	<ul style="list-style-type: none"> ・4月から、タブレットを授業で取り入れることを積極的に進めてきた。児童がタブレットを活用する良さを感じながら活用していると考えられる。 ・オンライン授業期間や全教員の研究授業等による指導者の共有を経て、他学年でもタブレットを有効的に活用することができた。使うことによって課題や成果が現れてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も授業でタブレットを積極的に使い、効果的な指導法を検討していく。 ・他学年は教科書とタブレットでラウンドセルが重くならないように配慮して活用している。 ・教と児童の評価の差がある。書く活動を行っている教員が「内容の明確化」はできていないと感じている教員がいると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットの家庭での使い方については保護者の協力が必要である。 ・子どものラウンドセルが本当に重く、驚いた。対応をお願いしたい。 ・可能であれば時間割は「連絡帳」への記入をお願いしたい。書くことは大切だと思う。 				
	2	学期に1回未満実施	1	児童の取り組んでいるという評価80%以上	① 27 ② 25 ③ 30 ④ 35	児童					87	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットを使って友達の見聞を閲覧できるようにすることで、友達の見聞を参考に自分の考えをもち、書くことができるようになった。 ・教と児童の評価の差がある。書く活動を行っている教員が「内容の明確化」はできていないと感じている教員がいると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後は、タブレットを活用して、考えを交流したり、交流したことから考えたことを書けるようにする授業を増やしていく。 ・書く内容スタンダードを意識し、めあてを意識した上で、書く内容を明確化していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットの対応に感謝している。 ・目標に対してしっかりと改善しようとしている学校の意識をしっかりと感じることができる。
2	学期に1回未満実施	1	児童の取り組んでいるという評価60%未満	① 27 ② 25 ③ 30 ④ 35	児童	97	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者が掲載状況を確認し、高評価となったことが、今後の日々の関わりにつながる。 ・ホームページを設けたことで、頻繁に掲載できた。学校だよりにQRコードを掲載したことも広報になった。 ・授業者は授業に集中しており写真撮影ができるようにしたため、掲載時期や学年が過ぎてもない課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・無理なく偏りなくホームページの更新を継続するために、スクールサポートスタッフや副校長業務支援員に、学習活動の撮影を依頼する。 ・校務分掌としてホームページ担当を設定し、学校だよりの作成と同様、経営支援部会で「来月の0年生はどんな写真が撮れそうか」を確認する機会を設けた。計画を立てることで、1月10日、学年の記事を掲載する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページを、ほぼ毎日見ている。子どもたちの様子をたくさん見ることができて、とてもありがたい。 ・地域の者でもホームページで子どもたちの様子がわかり、楽しむことができる。 ・無数のメールで写真撮影をお願いしたい。 ・学校公開をオンラインで配信してほしい。 					
2	学期に1回未満実施	1	児童の取り組んでいるという評価60%未満	① 33 ② 35 ③ 30 ④ 35	保護者					96	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者からの相談に対して、迅速に対応することを心掛けていることが高い評価につながったと考えられる。 ・学級内、学年内での相談等について、話し合う時間を設けたり、全職員で事業を共有したことができていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、保護者からの相談には、迅速に対応し、必要に応じて全教職員でよりよい評価につながることを考えていく。 ・安心して児童が学校生活を送れるように、全教職員が報告、連絡、相談を徹底し、共通理解を促して教育活動を行ってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・芝久保小は保護者からの対応がとても速く安心している。 ・10の小事は教員の皆さんで共有することなどは、今後も続けてほしい。 	
2	学期に1回未満実施	1	児童の取り組んでいるという評価60%未満	① 33 ② 27 ③ 30 ④ 35	保護者	100	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的な整理整頓や消毒作業は継続しており、児童の清掃活動も感染防止に支障のない範囲で行っている。 ・担当している教室等のSS(整理・整頓・清掃・清潔・習慣化)を実施している。 ・職員室の机にフラット化の取組が、各教室の整理整頓の意識にもつながったと認められる。 ・校内の空き教室の整備が必要である。物品移動や整理に大人気で作業したいが、日々の授業の中で時間設定は厳しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で床の雑巾がけを控えているので、床の掃除用スポンジモップを購入した。また、空気清浄機・二酸化炭素濃度測定器・掃除機(専科教室)などを購入したことで、今後の意識にもつながると認められる。 ・放課後の短時間計画的に作業時間として設定するなどして、次年度に向けての教室環境を整備していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・二酸化炭素計など、目視で指標になる機器類の導入はとてもよいと思う。 ・掃除機や掃除機ポートを使って簡単にできるようにしてほしいと思う。 ・仕事量に対する適切な職員配置がされるとよいのかと思う。 					
2	学期に1回未満実施	1	児童の取り組んでいるという評価60%未満	① 33 ② 27 ③ 30 ④ 35	保護者					50	<ul style="list-style-type: none"> ・平日の在校時間10時間以内が週3回以上は30%、2回は20%にとどまった。 ・コロナにより行事を縮小したが、新たな計画立案や、オンライン授業により2学期の授業や行事が過密となり、厳しい結果となった。 ・在校時間確認週間を設定したら、その週の在校時間平均10時間以内または10時間前後の教員が増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・在校時間を減らすためには仕事量を減らす必要がある。行事等は、前倒し開催ではなく、準備時間の削減を図りながら、必要に応じて行事になるよう、見直しをしていく。他にも、他校の実践を活用して計画立案、定時退勤日の各自設定、在校時間の目的の把握などに取り組みながら、働き方改革に取り組みたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・分析、改善ともに十分にされている。業務削減を図りながら充実した行事構築を目指して感謝している。 ・児童の健康も大切に、教職員の健康も大切に大切に。 ・教職員の在職時間を減らす必要は必要で大変だと思う。 ・とても難しいと思うのが取り組むこと。 ・自宅に持ち帰っては意味がないので、業務の見直しや仕事時間を決めようと考えてほしい。 	
2	学期に1回未満実施	1	児童の取り組んでいるという評価60%未満	① 33 ② 27 ③ 30 ④ 35	保護者	50	<ul style="list-style-type: none"> ・平日の在校時間10時間以内が週3回以上は30%、2回は20%にとどまった。 ・コロナにより行事を縮小したが、新たな計画立案や、オンライン授業により2学期の授業や行事が過密となり、厳しい結果となった。 ・在校時間確認週間を設定したら、その週の在校時間平均10時間以内または10時間前後の教員が増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・在校時間を減らすためには仕事量を減らす必要がある。行事等は、前倒し開催ではなく、準備時間の削減を図りながら、必要に応じて行事になるよう、見直しをしていく。他にも、他校の実践を活用して計画立案、定時退勤日の各自設定、在校時間の目的の把握などに取り組みながら、働き方改革に取り組みたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・分析、改善ともに十分にされている。業務削減を図りながら充実した行事構築を目指して感謝している。 ・児童の健康も大切に、教職員の健康も大切に大切に大切に。 ・教職員の在職時間を減らす必要は必要で大変だと思う。 ・とても難しいと思うのが取り組むこと。 ・自宅に持ち帰っては意味がないので、業務の見直しや仕事時間を決めようと考えてほしい。 					
2	学期に1回未満実施	1	児童の取り組んでいるという評価60%未満	① 33 ② 27 ③ 30 ④ 35	保護者					50	<ul style="list-style-type: none"> ・平日の在校時間10時間以内が週3回以上は30%、2回は20%にとどまった。 ・コロナにより行事を縮小したが、新たな計画立案や、オンライン授業により2学期の授業や行事が過密となり、厳しい結果となった。 ・在校時間確認週間を設定したら、その週の在校時間平均10時間以内または10時間前後の教員が増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・在校時間を減らすためには仕事量を減らす必要がある。行事等は、前倒し開催ではなく、準備時間の削減を図りながら、必要に応じて行事になるよう、見直しをしていく。他にも、他校の実践を活用して計画立案、定時退勤日の各自設定、在校時間の目的の把握などに取り組みながら、働き方改革に取り組みたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・分析、改善ともに十分にされている。業務削減を図りながら充実した行事構築を目指して感謝している。 ・児童の健康も大切に、教職員の健康も大切に大切に大切に大切に。 ・教職員の在職時間を減らす必要は必要で大変だと思う。 ・とても難しいと思うのが取り組むこと。 ・自宅に持ち帰っては意味がないので、業務の見直しや仕事時間を決めようと考えてほしい。 	
2	学期に1回未満実施	1	児童の取り組んでいるという評価60%未満	① 33 ② 27 ③ 30 ④ 35	保護者	50	<ul style="list-style-type: none"> ・平日の在校時間10時間以内が週3回以上は30%、2回は20%にとどまった。 ・コロナにより行事を縮小したが、新たな計画立案や、オンライン授業により2学期の授業や行事が過密となり、厳しい結果となった。 ・在校時間確認週間を設定したら、その週の在校時間平均10時間以内または10時間前後の教員が増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・在校時間を減らすためには仕事量を減らす必要がある。行事等は、前倒し開催ではなく、準備時間の削減を図りながら、必要に応じて行事になるよう、見直しをしていく。他にも、他校の実践を活用して計画立案、定時退勤日の各自設定、在校時間の目的の把握などに取り組みながら、働き方改革に取り組みたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・分析、改善ともに十分にされている。業務削減を図りながら充実した行事構築を目指して感謝している。 ・児童の健康も大切に、教職員の健康も大切に大切に大切に大切に大切に。 ・教職員の在職時間を減らす必要は必要で大変だと思う。 ・とても難しいと思うのが取り組むこと。 ・自宅に持ち帰っては意味がないので、業務の見直しや仕事時間を決めようと考えてほしい。 					